

11. 早苗

論 論 説

2023.4.10



史実正しく学ぶために

沖縄戦と教科書

第1次世界大戦末期の「一九四五年三月に始まった沖縄戦では、米軍が島上空した際に、住民の多くが殺害された結果、日本本連が開拓した多くの住民の犠牲が多かった」という記述が、文部科学省の教科書改定で、沖縄戦の記述が削除された。来年度から小学校六年生が使う社会の教科書「写真」も現行の教科書を廃棄して、旧版の圖写しに替えた記述はない。

これは米軍の攻撃だけで住民が死に傷ついたり、やられた上で殺戮を半分かれない。小中高校生のが沖縄戦の機知や戦策を主として学べる上、やる系口となる教科書や検定のあり方を考えたい。

検定に合格した小学校六年社会の三冊は、「アメリカ軍の激しい攻撃に、倒されられた住民のなかには、『集団虐殺』した人も多数いました」と、多くの住民が集団で死に過ぐるうえ、それが「集団虐殺」と記述されるべきことが起つりました。なぜと集団虐殺と離れては、が、田原の開きに記していない。

出版社側は、「子いわゆる兄弟説明を著意した」「集団虐殺の背景を記すには結論が取られる」などと本紙の取材に説明している。

集団自決は、米軍の攻撃に遭って命を奪いあつた住民である」との意見が付され、集団虐殺への筆觸を与える記述を換える箇句が載る。一四年に改定された検定基準では政府見解や最高裁判例を踏まえた表現が求められたといつてみた。

しかし、二〇〇七年の検定で高校歴史教科書に突然「実證」調解を生むやうがある」との意見が付され、集団自決への筆觸を与える記述がいつたん削除された。

沖縄戦の発展段階で、記述が複数あったが、それが疊重複する記述を換える箇句が載る。一四年に改定された検定基準では政府見解や最高裁判例を踏まえた表現が求められたといつてみた。

ただ、昨年検定に合格した高校歴史書は、眞の因果や強制性に触れた記述が複数ある。工夫すれば兎にも角の機知をつかつて、「伝承を教訓はある。

お隸戦は米軍統治下被虐集中の源流でもある。戦争を知らない世代があれにないたまごも、住民がなぜ集団自決として犠牲が死を説かれたのか、教科書が用いて教訓を出していくべきである。